みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道 徳 教 育 だ よ り　１２月号　　上赤　義人

こんな社会（世の中）になれば…　「バスと赤ちゃん」

先日、テレビニュースを見ていたら、外国でのあるできごとを伝えていました。泣きじゃくる赤ちゃんとその母親が、満員のバスの中にいる映像でした。バスはなかなか出発せず、バスの運転手は、その母親のいる座席に行き、「あなたがいるから、バスが発車できないのよ」と強い口調で言っていました。それを聞いた母親も周りの乗客も何も答えることはなく、その間も赤ちゃんの泣き声は、車内に響き渡りました。次の瞬間、赤ちゃんを抱いたまま母親は、バスを降り途方にくれていました。

このニュースをどのように感じたでしょうか。

日本にも、数十年前、これと似たようなできごとがあったそうです。ここで、道徳の授業で活用している資料を紹介します。

満員のバスの車内は、立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、不快なものでした。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの火のついたような鳴き声が聞こえました。私には、見えませんでしたが、ギュウギュウ詰めのバスと、人の熱気と暖房とで、小さな赤ちゃんにとって苦しく、泣く以外に方法がなかったのだ、と思えました。泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは新宿に向かい走っていました。

バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りる時、後方から、「待ってください。降ります。」と若い女の人の声が聞こえました。その人は人の間をかきわけるように前の方へ進んで来ます。

その時、私は、その人が、泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだと分かりました。

そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとすると、運転手さんは、「目的地はここですか。」と聞いています。その女性は、気の毒そうに小さな声で、「新宿までなのですが、子どもが泣くので、ここで降ります」と答えました。すると運転手さんは、少し考えてからマイクのスイッチを入れました。「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いているので、皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は、泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてください。」と言いました。

私はどうしていいか分からず、多分みんなもそうだったと思います。ほんの何秒かが過ぎた時、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となっていたのです。若いお母さんは何度も頭を下げていました。

こんな資料での光景には、なんとなく心温まるものがあります。バスという小さな社会での人々の心のつながりが、大きな社会となっていくことができたらすてきなことだと思います。是非、そんな社会を目指していきたいものです。

ところで、最初にお話しした外国でのバスのことですが、その後の話しがあります。赤ちゃんを抱えたお母さんが、バスから降りた後、乗客が一人、また一人バスを降り始めました。バスを降りた乗客の一人は、その母親に対して、「あなたが降りるなら、私たちも降りるわ…」と声をかけて、歩いていきました。そして、バスのすべての乗客が降りたのでした。

日本でも外国でも、世界中で、人の優しさや思いやりが息づいていることを改めて感じたニュースでした。

お正月に語り合ってみませんか

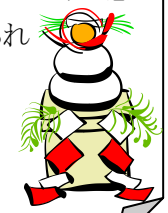
～子どもたちの心を育てるチャンスです～

お正月は、日本の伝統的な行事であることは言うまでもありません。しめ飾り、鏡もち、おせち料理、お雑煮などがあります。最近では、これらのことをすべて行う家庭は、少なくなったのかもしれませんが、お正月の時期には、誰もが様々な場面で目にすることがあります。

お正月の行事には、ひとつひとつに意味があります。その意味を子どもたちに語ることで、いにしえの人々の思いや知恵を知るとともに、今を生きていることの大切さを感じることもできるのではないでしょうか。

ここで、正月の由来等を紹介します。

昔から、元旦には「年神様（としがみさま）」という新年の神様が、１年の幸福をもたらすために各家庭に降臨するとされています。新しい年を“迎える”と表現したり、“一年の計は元旦にあり”といったりするのも、年神様を元旦にお迎えするからで、お正月の行事や風習には、年神様をめぐる一連のストーリー（物語）があります。神様をお迎えするためにしめ飾りや鏡もちが飾られます。おせち料理は、神様への収穫物の報告や感謝の意でつくられます。料理１つ１つに子孫繁栄などの願いが込められています。



子どもたちと、ゆっくりそんなことを語り合うことができる正月にしたいものです。　よいお年をお迎えください。